

仙北市長
門脇 光浩

仙北市観光大使要綱を制定しました。これまでは各観光協会がそれぞれに観光大使をお願いしてきましたが、これからは市が委嘱者になり、観光政策やまちづくりへの提言などもいただきたいと思います。

この新要綱に基づき、先日は株式会社バスクリン（本社：東京都）代表取締役社長の古賀和則氏に、仙北市初の観光大使をお願いしました。バスクリンは乳頭温泉郷との関係がホットで、平成12年から地元と共同企画した「日本の名湯シリーズ」乳頭を販売、シリーズ中で人気ナンバー2の商品に育ててくれました。また平成21年から同温泉郷の7温泉を結び「湯めぐり号」（乗合バス）の運行にも協力をいただいています。

観光振興は、地域経済への波及効果が高いことから、全国の自治体があの手この手で取り組んでいる現状です。観光大使の委嘱もその一つで、よくあるケースは著名な地元出身者への委嘱です。例えば福山雅治さんは長崎市ふるさと大使、西野力さんは三重県観光大使に委嘱されています。県内では

由利本荘市の加藤夏希さんが有名です。そんな方々と比べたら、「バスクリンの古賀社長はいかにも地味だなあ」と思っただ方が多いかも…。確かに古賀社長は大河ドラマにも出演しないし、数万人を動員するコンサートも開催しません。テレビへの出演も滅多にないと思います。でも本当に魅力的な方です。バスクリンと言う会社自体、国民にとっては馴染み深いし、明確な社会的使命感を持って、商品の開発・販売を行っている企業です。

バスクリンの社是は「健康は進化することです。仙北市の観光も、「訪ねてくれた方々が、心と体の健康を取り戻せる」とことが大切と考えていて、進む路が共通しています。

こんな理由から、今回は古賀社長に観光大使を委嘱させていただきました。全国の方々が、お家でお風呂に入るとき、仙北市を思い出してくれるぐらい浸透したらスゴイです。でも、実は一番の観光大使は仙北市民のお一人おひとり、そしてお盆で帰省した皆さんなんですけどね。

今夏の高校野球秋田大会では、「北日本の脊梁の」で始まる角館高校の校歌を5度も聴くことができました。

湯澤淳先生（監督）、野球部の皆さん、その御父兄、そしてまわりで支えてくれた方々、大変お疲れ様でした。

そして、月並みですが、幾度も感動させて頂き、誠にありがとうございました。何よりも私が感動したのは、決勝進出という結果よりも、野球の強豪校、伝統校と対峙して、怯まず、臆せず、堂々と渡り合うその姿勢に對してです。無欲で決勝戦まで駆け上がった26年前は例外として、角館高校野球部は戦前の評価は高くても実力を出せず、2回戦や3回戦で敗退してしまいましたが、近年まで続いていました。

それは、中央地区の名門校と対戦した時が顕著でした。湯澤マジックの効果により、それらに對する苦手意識が払拭されたためでしょうか。一転して今年は、秋田高校、本庄高校、明桜高校を連破しました。しかも秋田高校

戦と本庄高校戦は逆転勝ちでした。過去に逆転の実績がありませんことを考えると驚嘆するほかにありません。

当たり前のことですが、毎年部員が入れ替わる中で、強いチームを作るのは大変なことです。しかし、それ以上にはるかに至難なのは、日ごろの鍛錬で備えた実力を本番で出し切ることでないでしょうか。そのことを精神力だと、また、その精神力は不断の猛練習なくして得られないと世間は無造作に言いますが、果たしてそんなに単純に言い切れるものなのでしょうか。

相馬投手だけでなく、打撃、走塁、守備の技術、どれをとってもすばらしいものがありました。しかし、それだけではあの息詰まる接戦となった3回戦、準々決勝、準決勝を制することはできなかったのではないのでしょうか。ピンチでもチャンスでも泰然としていた湯澤監督と、監督を敬愛しその采配に応える選手達。今回の躍進の背景には、猛練

習の積み重ねだけでは構築できない、監督と選手、師弟のしつかりした信頼関係があったように思っています。

決勝戦の翌日、野球部のミーティングと練習の場面でテレビで放映されていた。それを見ていて思わず涙が流れました。タッチの差で優勝に手が届かなかったショックは消えていないはずなのに、落胆、無念、悔恨などとは無縁のさわやかで生き生きした表情が全ての部員に溢れていたからです。過去を引きずらず、前を向く姿勢、本番で萎縮せず実力を100パーセント発揮できた理由、即ち角館高校野球部の精神的な成長の一端を垣間見た思いがしました。某新聞のコラムの一部を拝借すると、冒頭で述べた角館高校の校歌は「競いて起たむもろとも」で締めくくられています。再び起つて悲願を達成するその日はすぐそこまで来ているように思います。

角館高校卒業生 鈴木 一正

第29回 国民文化祭・あきた2014 仙北市主催事業紹介③



佐藤貞子～秋田おばこ物語～

～秋田は民謡の宝庫！ 仙北が生んだお貞っこの生涯～

明治19年、仙北郡神代村（現在の仙北市）に生まれ、県内祭事の花形となり、昭和初期には全国を巡業し“おばこ節”を広めた「佐藤貞子」の一生を、秋田で生まれ育った俳優 浅利香津代の朗読と、貞子晩年の弟子であり、貞子の踊りを継承している仙北市在住 高橋キヌ指導の社中との協演により、大迫力で描きます。また仙北に生まれ育った先駆者に学び、地元で民謡文化の継承に励んでいる方々を通して、現代に唄い親しまれている民謡を紹介します。



【日時】 平成26年10月25日（土）
開演 13：30
【会場】 仙北市民会館
【問合せ】 第29回国民文化祭仙北市実行委員会 事務局
（教育委員会国民文化祭推進室内） ☎ 43-3315



生涯学習サークル紹介

【問い合わせ先】

教育委員会生涯学習課 ☎ 43-3383

広報せんぼく 6月16日号掲載の仙北市生涯学習ガイドから主に市内で活動するサークルを紹介します。

参加してみたいなど、活動に興味がある方は生涯学習課にお問い合わせください。

■サークル名 太極拳かくのだて

■活動日時 毎週火曜日 13：30～15：30
毎週水曜日 10：00～12：00

■活動場所 角館武道館

「太極拳かくのだて」は発足してから今年で6年目を迎え会員数約50人、30代から80代と幅広い年齢構成になっています。毎回、ゆっくりとそれぞれのペースで体を動かしながら気持ちいい汗を流しています。

高齢化が言われている昨今、足腰が痛いといって病院に行くと「加齢」で片付けられることもありますが、私たちは「加齢になんかに負けてはいられないわ!」と「華麗」に体を動かしています。



7月3日（水）に角館武道館でメンバーが恒例の新人歓迎・練習会を行いました。これまでの練習の成果をおそろいの表演服を着て新入会員に披露しました。